

東大合格公立高校全国第一位に輝く

難関大志向強まる

平成十三年度入試報告 進路指導部

平成十三年度入試では、東大三名(新卒二四名)、筑波大四二名(新卒三五名)が合格しました。東大合格数三年連続で三十の大台に乗せ、全国公立高中第一位であり、筑波大合格数は全国第一位を堅持しました。京都大に九名(新卒五名)の合格を出したことは、本校生の難関大志向に一層の道筋を開くものとして賞賛に値しますし、筑波大医学専門学群の五名を含めた国立大医学部合格者数十二名という数字も立派な実績であります。

私大の方では慶応大四八名(新卒二二名)、早稲田大一〇八名(新卒六二名)、上智大二二名(新卒一四名)、東京理科大八七名(新卒三〇名)の合格者を出し健闘しました。特に早稲田大の数字が光ります。国立大合格者の総数では一九二名(新卒一九名)にとどまりましたが、内容的に充実した数字であると言えます。公立大・私大等を加えた合格者総数は八三二名(新卒四〇八名)で、五月一日現在、新卒生の進学者数は前年比二〇名減の一九二名となっています。

ここ数年指摘されてきた難関大志向の増加は今年も顕著で東大・京都大の受験が多かったのが、特徴です。

難関国立大を第一志望として他は受験しないか、私立大併願をするが、早稲田・慶応・上智あたり以外では合格しても進学しない、

という構図が徹底してきています。進学者数の減少に拍車をかけるかたちとなっております。

慢性化する不況の中、世は挙げて浪人回避へと動きつつある中で本校は浪人増加の傾向です。一年くらい浪人しても第一志望を貫徹した方が良いという判断が根拠になっていきます。したがって、本校生が希望する難関国立大や有力私大により多くの合格者が出ない限り、進学者数減少に歯止めはかからないと思われまます。

私大の方も早稲田の合格者が多く出ましたが、慶応・東京理科・立教・法政大などの合格率が下がっていて、気になるところです。

浪人生の方は一五三名のうち、一三九名が進学しました。東大・京都大・東工大・一橋大・東北大・筑波大・早稲田大・慶応大および国立大医学部などへ多くの合格者が出ていて、雌伏一年の苦勞が偲ばれますが、すべてが第一志望を貫徹出来たわけではありませぬ。むしろ、第二の策として主要私大を併願し、合格できた所に入學するという現実的組み立てを実行している者が多くなっています。

本校生が志を高く保ち、果敢に難関大受験に挑戦し、合格していくのは大変喜ばしい限りですが、希望に見合う実力養成という厳しい試験に直面しているのも否めない事実であります。

平成13年度入試合格状況

国公立大学

私立大学

Table with 4 columns: University Name, Qualified, New Graduates. Lists 20 national/public universities including Hokkaido, Tohoku, Aichi, Tsukuba, Chiba, etc.

Table with 4 columns: University Name, Qualified, New Graduates. Lists 20 national/public universities including Hamamatsu, Yamanashi, Shizuoka, Osaka, etc.

Table with 4 columns: University Name, Qualified, New Graduates. Lists 20 private universities including Aoyama Gakuin, Gakushuin, Keio, etc.